熊本大学大学院社会文化科学研究科　第4回公共政策セミナー

震災からの復興を考える
ー村は不幸を分け合うシステムたりうるかー

巨大地震の経験は、社会のあり方を考え直す手がかりを与えてくれる。災害に見舞われたとき、私たちがどのような社会に暮らしていたのかを再認識させられるからである。丸裸で激震の中に放り出され、何ヶ月も住居が定まらず、不安を抱え続けた熊本の人々の様子がテレビなどで報じられた。私たちの暮らす社会は、いつからこうなってしまったのであろうか？そしてそれはなぜなのだろうか？本セミナーでは、報告者の研究対象地（中越地震で大きな被害を受けた新潟県山古志村〔現・長岡市〕の所在した古志郡）の歴史を紐解きながら、人と土地をめぐる村の性格変化をあとづけ、現代に生きる我々が見落しがちな「復興への視点」について考えを深めていきたい。

日時　2016年**12月8日(木)**
14:30～16:00

場所　熊本大学　黒髪北キャンパス
文・法学部棟2階　**共用会議室**

※ご来場の際は、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします

講師　**荒木田　岳**（福島大学行政政策学類　准教授）

司会　**奥住　弘久**（熊本大学大学院社会文化科学研究科　教授）

事前申込不要・参加費無料

【お問い合わせ】
熊本大学大学院社会文化科学研究科
社会人大学院教育支援センター
Tel/Fax：096-342-2390　E-mail：full1102@kumamoto-u.ac.jp

主催：熊本大学大学院社会文化科学研究科

Kumamoto University